

VAULT® 補足資料

Windows 7 → Windows 8 アップグレード手順 [VVAULT 4.5.x版]

Appendix for VVAULT

1	OSアップグレード前の準備	4
2	OSアップグレード	6
3	VVAULTのアンインストール	7
4	VVAULTのインストール	11
5	VVAULTの動作の確認	14

本文書のご利用にあたって

●本文書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。●本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のもので、最新版の製品および製品サイトと文言やデザイン等が異なる場合があります。●本文書内の社名、製品名は各社の商標又は登録商標です。

●本文書の内容は2013年6月10日現在のものです。

はじめに

VVAULTがインストールされているWindows 7の環境をWindows 8にアップグレードした場合、そのままではVVAULTが使用できない状態となります。本文書では、既存環境からWindows 8へアップグレードする場合の対応手順について説明します。なお、Windows Server 2012へのアップグレードでも本文書と同様の手順にて対応してください。

■ 前提

本文書の手順解説では、VVAULT 4.5.x系の最新バージョンをご利用の上で、機能として「仮想ドライブ」および「ライブバックアップ」がインストールされていることを前提とします。また、各機能のDBデータの保存先には下記が指定されているものとします。

- ・仮想ドライブDBデータ保存先:C:\Program Files\VVAULT
- ・バックアップDBデータ保存先:C:\Program Files\VVAULT_BACKUP

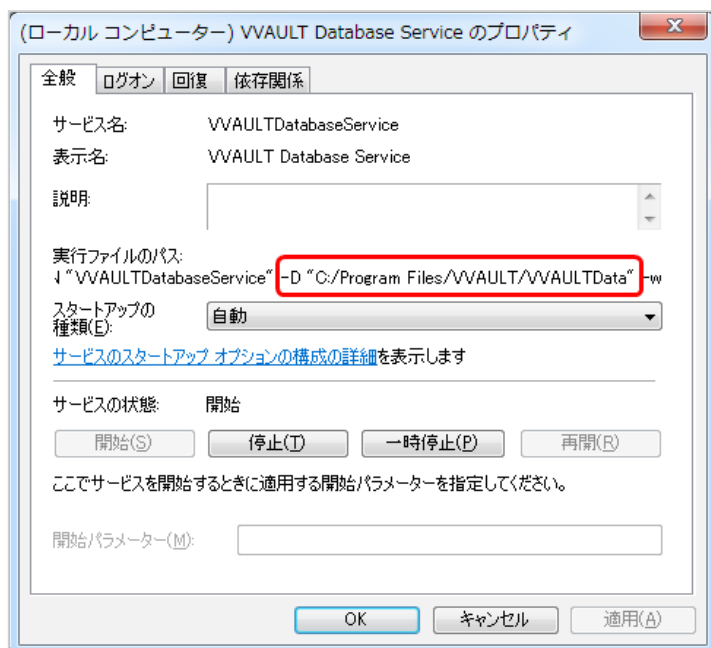
1 OS アップグレード前の準備

手順解説

① 製品サイトの「[最新版へのアップデート方法](#)」のページを参考に4.5.x系の最新バージョンにアップデートします。



② VVAULT DBデータのインストール先を確認します。



ワンポイント

インストールされているVVAULTのバージョンは、「コントロールパネル」>「プログラム」>「プログラムと機能」のアプリケーションの一覧より、「VVAULT」の「バージョン」を確認ください。



ご注意

OSのアップデート後、インストールされていたVVAULTと同一バージョンのインストーラーが必要となりますので、必ずOSのアップデート前にVVAULT 4.5.x系の最新バージョンにアップデートしてください。

ワンポイント

インストールされているデータベースサービスはVVAULTの機能選択によって異なります。機能とサービスの対応は下記となります。

- ・VVAULT Database Service (仮想ドライブ)
- ・VVAULT Backup Database Service (ライブバックアップ)
- ・VVAULT DR Database Service (バックアップサーバ)



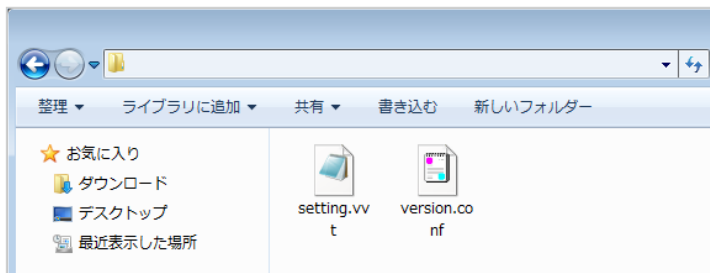
ご注意

OSアップグレード後、VVAULTで管理されているファイルをそのまま利用するため、VVAULTのインストール時に指定したDBデータの保存先を確認する必要があります。DBデータの保存先を確認するには、「コントロールパネル」>「システムとセキュリティ」>「管理ツール」の「サービス」をダブルクリックして、「サービス」より「VVAULT Ddatabase Service」および「VVAULT Backup Database Service」のプロパティを表示し、「実行ファイルのパス」を確認します。「-D」直後に指定されているパスがDBデータの保存先となります。

なおアップグレード後では確認できませんので、DBの保存先が不明な場合は必ずアップグレード前に確認ください。

手順解説

- ③ VVAULT DBデータの各インストール先に、[setting.vvt]と[version.conf]の2つのファイルが存在することを確認します。

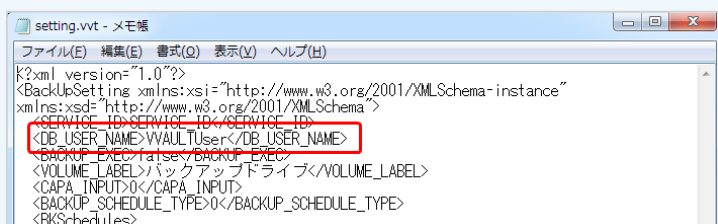
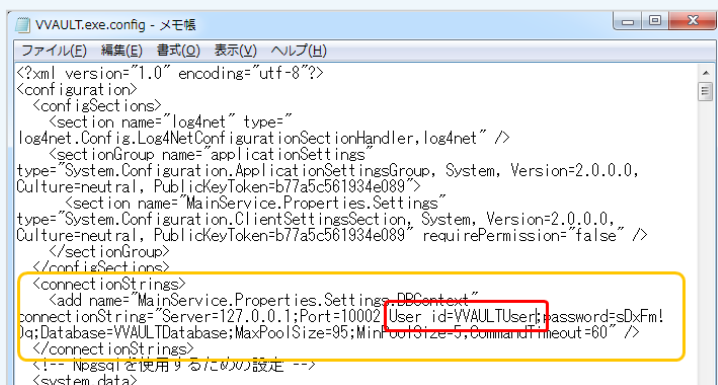


4.5.0以前のバージョンからVVAULTを利用してアップデートして使用している場合、仮想ドライブのDBデータ保存先にsettings.vvtファイルが存在しない可能性があります。本手順での対応が必要となりますので、存在しない場合は、下記の手順に従い、setting.vvtファイルを作成してください。



setting.vvt ファイルの作成方法

設定ファイルをここからダウンロード(<http://wvaul.jp/blog/wp-content/uploads/2013/06/setting.zip>)し、解凍してできたsetting.vvtファイルを環境に合わせて修正し、仮想ドライブのDBデータ保存先に保存してください。修正箇所は、setting.vvt ファイルの<DB_USER_NAME>要素の値をVVAULT.exe.configファイルの<connectionStrings>要素の属性情報中の“User id”の値と同じくする必要があります。下画像ではVVAULT.exe.configに“User id=VVAULTUser”として保存されているので、setting.vvtの<DB_USER_NAME>の値を“VVAULTUser”としています。



2 OS アップグレード

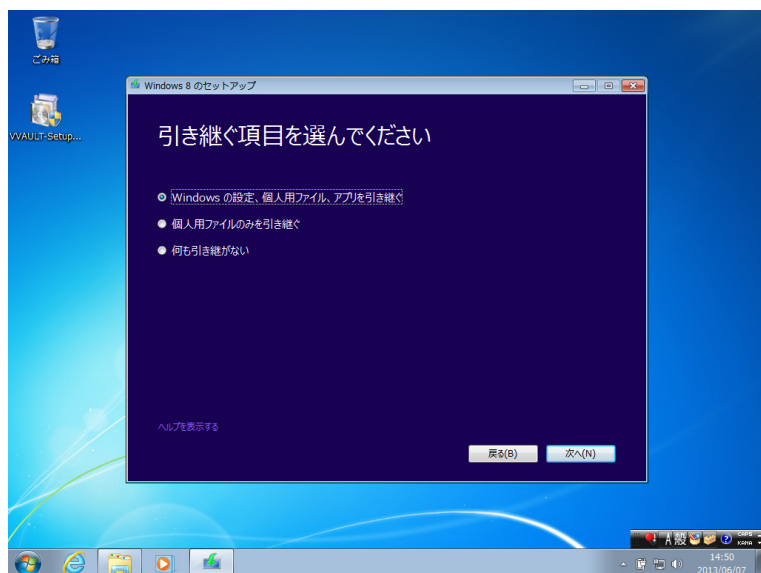
OSのアップグレード手順に従い、OSをアップグレードしてください。移行元、移行先のエディションの組み合わせによって引き継ぎ内容が異なりますのでご注意ください。アップグレードの詳細については下記URLを確認してください。また、アップグレード中の選択によっても引き継ぎ項目が異なります。

•Windows 8 アップグレード パス

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj203353.aspx>

•Windows Server 2012 アップグレード オプション

<http://technet.microsoft.com/ja-JP/library/jj574204.aspx>



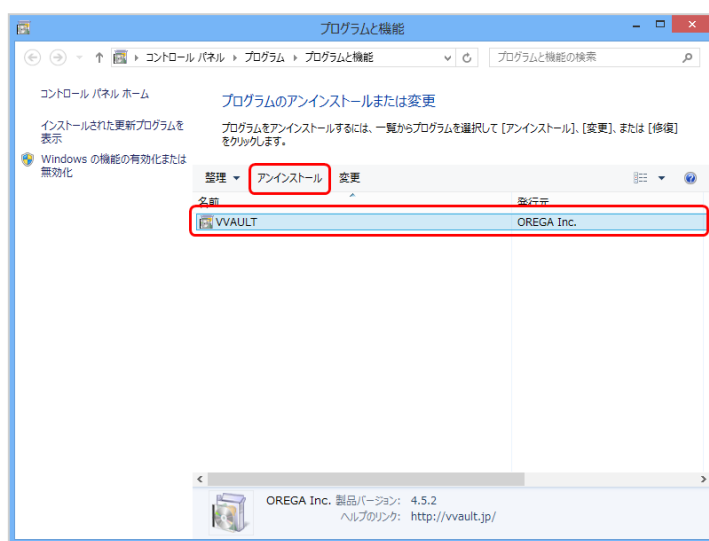
セットアップの引き継ぎ項目の選択で“Windowsの設定、個人用ファイル、アプリを引き継ぐ”を選択した場合は「[3 VVAULTのアンインストール \(P.7\)](#)」からを、引き継ぎを行わなかった場合は「[4 VVAULTのインストール \(P.11\)](#)」以降を実施してください。

3 VVAULT のアンインストール

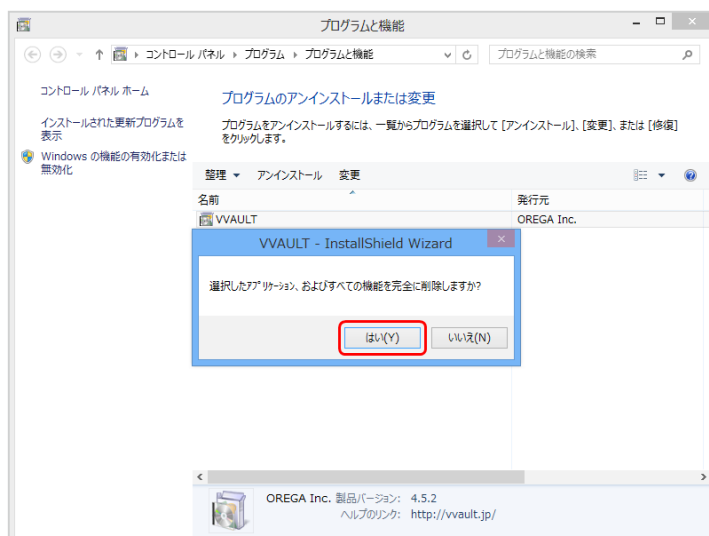
OSアップグレード後、VVAULTのDBサービスが削除された状態となっていますので、下記の手順でVVAULTをアンインストールします。

手順解説

- ① 「プログラムと機能」よりVVAULTの「アンインストール」を実行します。

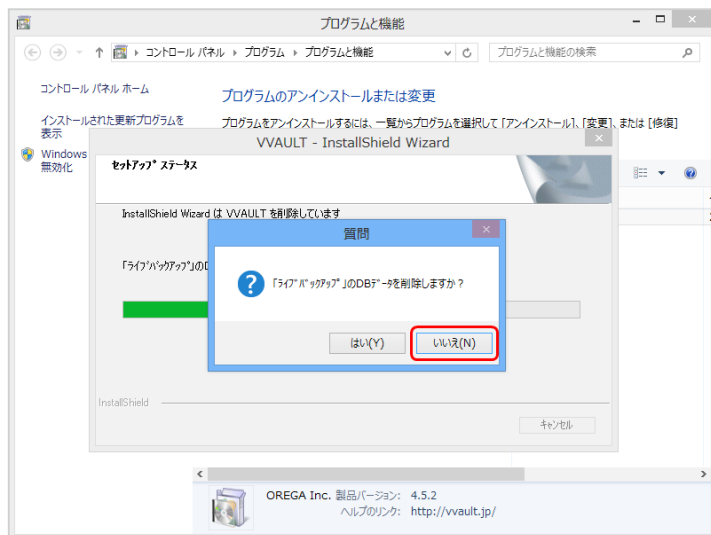


- ② “選択したアプリケーション、およびすべての機能を完全に削除しますか?”とダイアログが表示されたら、“はい(Y)”を選択します。

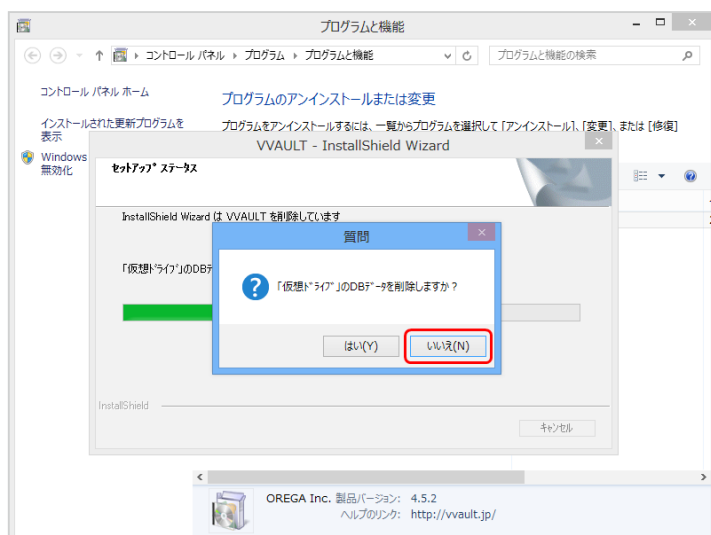


手順解説

- ③ 「ライブバックアップ」のDBデータを削除しますか?というDBデータ削除の確認ダイアログが表示されたら、必ず“いいえ(N)”を選択します。
DBデータの削除ダイアログで“はい(Y)”を選択した場合は、バックアップを復旧することができませんのでご注意ください。



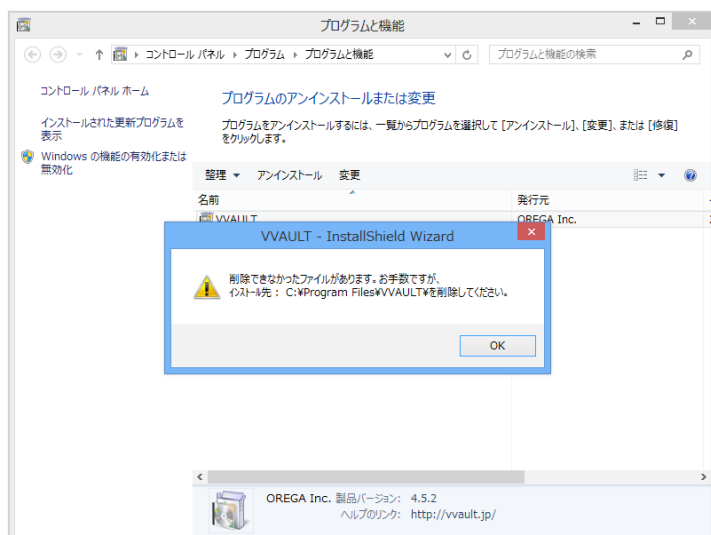
- ④ 「仮想ドライブ」のDBデータを削除しますか?というDBデータ削除の確認ダイアログが表示されたら、必ず“いいえ(N)”を選択します。
DBデータの削除ダイアログで“はい(Y)”を選択した場合は、バックアップを復旧することができませんのでご注意ください。



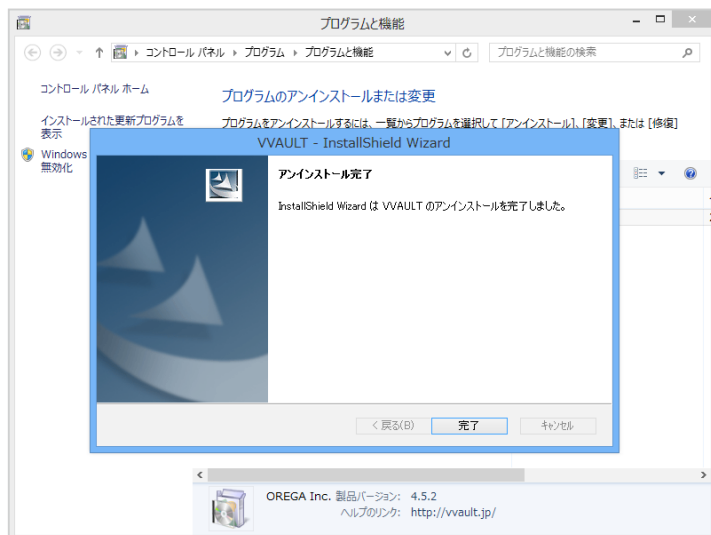
手順解説



- ⑤ “削除できなかったファイルがあります。お手数ですが、インストール先: C:\Program Files\VVAULT¥を削除してください。”というダイアログが表示される場合は“OK”をクリックしてダイアログを閉じます。
メッセージに従った削除操作等を行わないでください。復旧できなくなります。



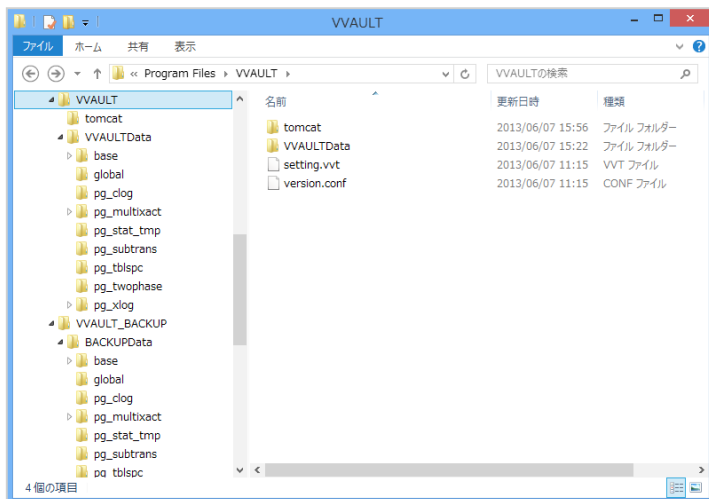
- ⑥ アンインストール完了の画面が表示されたら“完了”をクリックします。



手順解説



アンインストール完了後、DBデータは下画像のように残されたままとなります。



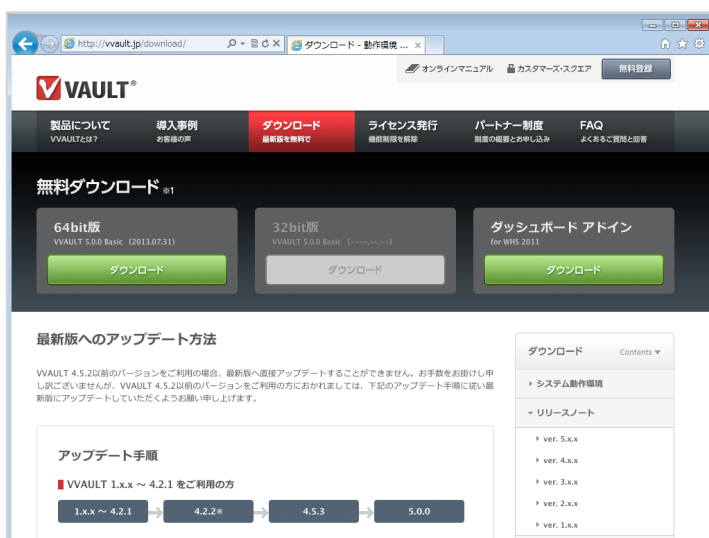
⑦ コンピュータを再起動します。

4 VVAULTのインストール

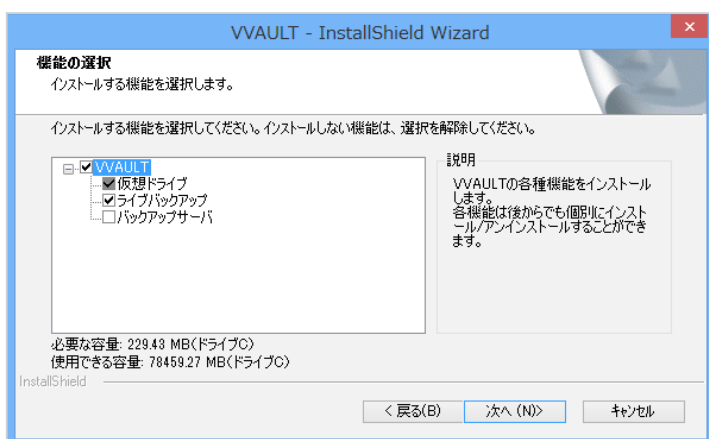
OS再起動後、下記の手順に従いVVAULTをインストールします。

手順解説

① 製品サイトの「[最新版へのアップデート方法](#)」のページから、4.5.x系の最新バージョンのインストーラーをダウンロードし実行します。

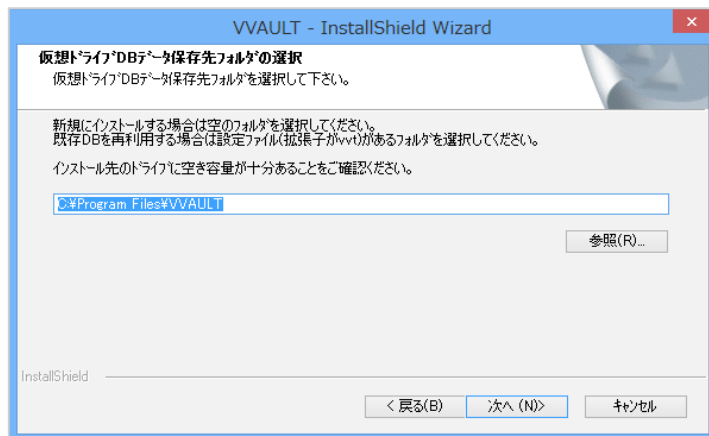


② “機能の選択”で元の状態と同様の機能を選択し、“次へ”をクリックします。



手順解説

- ③ “仮想ドライブDBデータ保存先フォルダの選択”で、「1 OSアップグレード前の準備 (P.4)」にて確認した既存のDBの保存先を選択します。

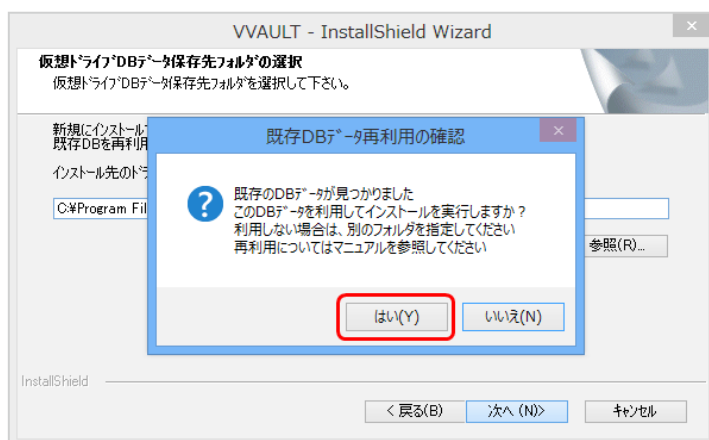


! **ご注意**

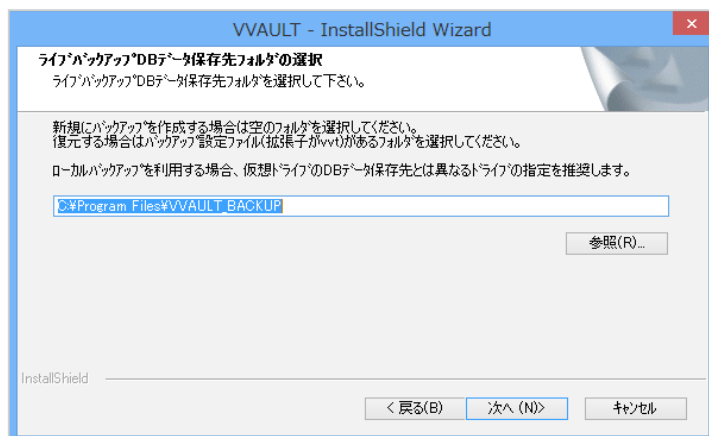
DBの保存先が、OSインストールドライブの“Program Files”フォルダ階層下に配置されていて引き継ぎを行わなかった場合は、アップグレード後にパスが変更されますのでご注意ください。

[C:\Program Files\VVAULT]を指定の場合
↓
[C:\Windows.old\Program Files\VVAULT]に移動

- ④ “既存DBデータ再利用の確認”ダイアログが表示されますので、“はい(Y)”をクリックします。



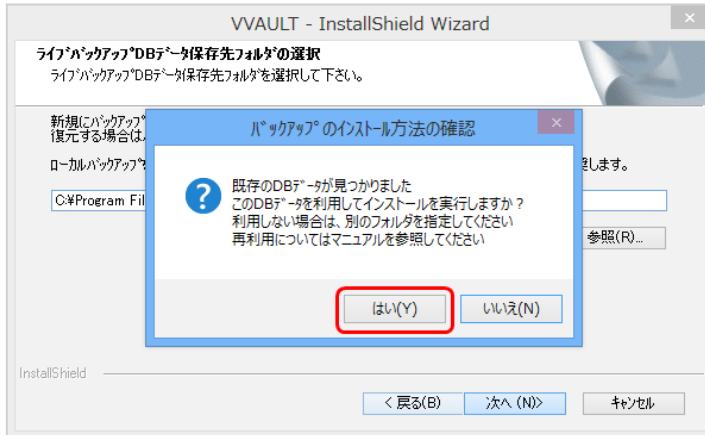
- ⑤ “バックアップDBデータ保存先フォルダの選択”で、既存のDBのパスを選択します。



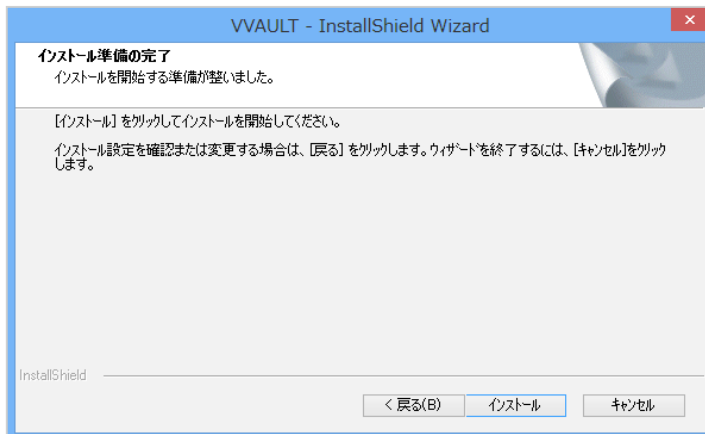
手順解説



- ⑥ “既存DBデータ再利用の確認”ダイアログが表示されますので、“はい(Y)”をクリックします。



- ⑦ “インストール準備の完了”にて“インストール”をクリックします。



- ⑧ インストール完了後、コンピュータを再起動します。

5 VVAULTの動作の確認

下記の通り、VVAULTの動作を確認します。

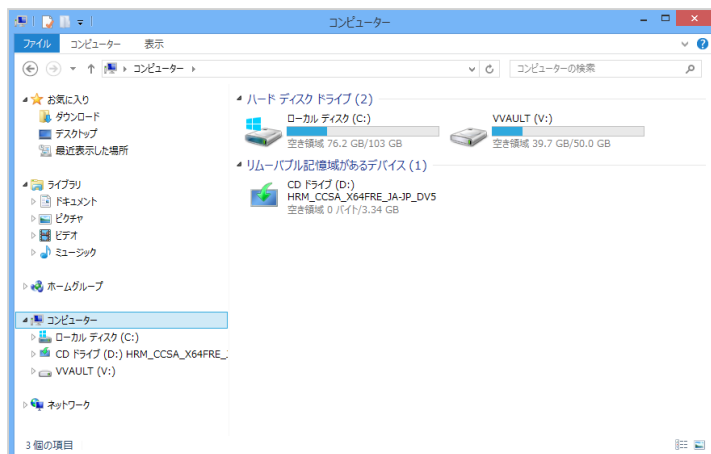
手順解説

① VVAULT管理画面にログインできることを確認します。

VVAULT管理画面の表示方法については公式ブログ「[Windows 8 / Windows Server 2012 / Windows Storage Server 2012をお使いいただくための注意事項](#)」の「[2. VVAULT管理画面の表示方法\(各OS共通\)](#)」を確認ください。

ライセンスをインストールしていた場合、削除された状態となっておりますので、ライセンスを再アクティベーションしてください。

② 仮想ドライブの動作を確認します。



ご注意

Windows 7からWindows 8へのアップグレードにて引き継ぎを行わなかった場合はユーザー情報がクリアされるため、仮想ドライブ上のセキュリティ情報が不正な状態となっている可能性があります。正常にご利用するにはセキュリティ/所有者を適切に再設定してください。



株式会社オレガ

東京都新宿区山吹町 347 藤和江戸川橋ビル 6F
<http://www.orega.co.jp/>